

先日、不思議な体験をした。いつも通り、帰りがけに猿江公園を歩いていると、目の前の暗い道を1匹のカエルが横切った。大きさや跳び方から、ニホンアカガエルだろうと推測して（ヒキガエルよりアカガエルの方がジャンプは上手い）、カエルの向かった先の植込みのあたりを懐中電灯で照らしてみた。すると、そこにはカエルの姿はなかったのだが、**代わりにヘンテコな形のキノコが生えていた**。まるで地面に直接花が咲いているかのようになり、ちょっと不気味な模様の皮を広げている。この奇抜なキノコは、、、**ツチグリだ！**前から見てみたいと思っていたが、まさかこんなところに生えているとは。その後、猿江公園をいろいろ探したが、結局ツチグリが見つかったのはこの一角だけだった。普段はあまり目を向けられないような場所だったので、アカガエルが横切らなければ今後もツチグリの存在には気付かなかったかもしれない。ただの偶然の出来事なのだが、なんだかまるで、カエルが「ここにツチグリ生えてるよ」と教えてくれたかのようにちょっと嬉しくなる体験だった。

ツチグリは、マツタケやシメジと同じ**“担子菌”**という菌類の仲間なのだが、とにかくへんくりんな見た目をしている。星形に広がった構造をしているので、**英語ではEarth Star（地上の星）**と呼ぶのだそうだ。花びらのような構造（外皮）の中心には袋のようなもの（内皮）があり、そこに胞子が入っている。雨が降ると湿気で外皮が開いて右の写真のような状態になり、雨がやんで乾燥してくると再び外皮が閉じる。この特徴から、「**キノコの晴雨計**」とも呼ばれているそうだ。地上の星とかキノコの晴雨計とか、奇抜な見た目からか、ツチグリには色んな**“あだ名”**があって面白い。



開ききった様子

雨の日の翌朝に見てみると外皮が反り返っていた。外皮は二層になっていて、内側が水分で膨張することで開くのだそうだ。



閉じ始めたところ

雨の日の後、晴れが続いたので見に行ってみると、外皮が乾いて閉じ始めていた。



“袋”の内部

袋を破ってみると、こなこなの胞子が詰まっていた。



外皮が開く前の様子

これだけ見てもツチグリだと気付くのはなかなか難しい。幼菌はけーころ（蹴転）と呼ばれ、食用になる。



ツチグリ *Astraeus hygrometricus* ?

奇妙な見た目だが、こう見えてキノコの一種で、マツタケなどと同じ“担子菌”というグループに属する。土栗（ツチグリ）または土柿（ツチガキ）とも呼ばれるそう。東北地方では幼菌を食用にもするそう。

湿度が高くなると外皮が星形に開き、乾燥すると閉じる。中央の袋に胞子が入っていて、雨粒が落ちた際や外皮が閉じた際に胞子が飛び出す。外皮の内側はひび割れたタイルのような不思議な模様になっている。

属名 *Astraeus* は、ギリシャ神話の星の神アストライオスのことで、種小名 *hygrometricus* は、ギリシャ語の湿度計を意味する。星の湿度計、またはキノコの晴雨計とも呼ばれている。

